

とびひ

のもと皮膚科クリニック 野本 重敏

(2004年6月28日放送)

Q とびひの症状は？

A とびひとは、正式な病名を伝染性膿痂疹といいまして、お子さんに多い皮膚の細菌感染症です。水いぼと同じように夏に多い病気で、体のあちこちに水ぶくれやカサブタを伴った赤い発疹がたくさんできます。

Q 痛みやかゆみはありますか？

A かゆいこともあれば、あまりかゆくないこともあります。鼻の中に原因となる菌が生息していて、鼻をいじっているうちに顔じゅうに発疹が広がってくる例もよくあります。アトピー性皮膚炎のあるお子さんや、肌が乾燥したお子さんに多い傾向があります。

Q とびひの治療は？

A とびひの治療の基本は、抗生物質の外用と内服です。原因となる菌は、黄色ブドウ球菌と溶連菌のことが多く、とくに溶連菌の場合には、後遺症として腎障害を起こすこともありますので注意が必要です。溶連菌が疑われる場合には、抗生物質を長く服用する必要があり、少なくとも10日間くらいは服用したほうがいいでしょう。最近では、MRSAと呼ばれる抗生物質が効きにくい菌がとびひから多く見つかっています。この場合には少し治療が長引くことがありますが、決して治らない病気ではありませんので心配ありません。

Q お風呂に入っても大丈夫ですか？

A とびひの治療の際に、以前は消毒をして、お風呂には入らないようにといわれた時期もありましたが、最近ではそういう方法はとりません。消毒するとかかなり痛いですし、刺激によって皮膚炎を起こすこともありますので、むしろ消毒しないほうがよいでしょう。シャワーや入浴で患部をきれいに

することのほうが重要です。きれいにしたあとは、抗生物質の入った外用剤を塗布します。

Q 登園・登校については？

A とびひについては、出席の停止が法律でとくに決められているわけではありませんので、医師の判断、あるいはその施設の判断によることが多いかと思います。私は、治療を開始して、患部をきちんと覆っておけば、登園・登校を禁止する必要はないように思います。ただし、プールの使用は、完全に治るまでは避けたほうがいいと思います。

Q 感染を防ぐためのアドバイスを。

A 皮膚に湿疹や乾燥肌がありますと、とびひにも感染しやすくなりますので、ふだんからクリームなどを塗ってスキンケアをしておくことが重要です。あとは、外で遊んだりして汗をかいたら、こまめにシャワーをして肌を清潔に保つことも大事です。